

—付— 東彼杵町内の中世石塔について(第53~55図)

岡遺跡発見の中世石塔の他に、町内には思わぬ所からも出土したりして、天正2年(1574)に吹き荒れた切支丹の嵐、大村純忠の切支丹王国樹立の犠牲となり、その惨状を物語る傷ついたり、埋められた中世の石塔が、ひっそりと祀られたり、捨てられたまま数多く静かに散在している。

郷村記(彼杵村)に古寺跡として、大安寺、報恩寺、永林坊、妙音寺、治法寺、福伝庵、専修寺、地勝寺、千寿寺、高林坊、大門坊の11寺をあげている。しかし「寺跡今その所を知らず間々その名を地名に存するのみ。」とあり、江戸時代すでに中世寺院の焼却と共に忘れ去られている。

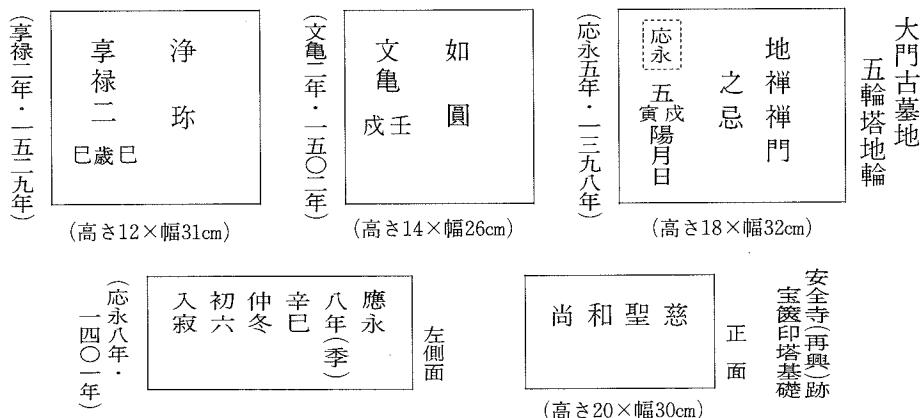
大門古墓地は岡遺跡の南西約100m、彼杵中学校の西側に近接した所にあり、ひやくどう墓とも呼ばれている。(粒崎義太氏談)祀られなくなった近世の墓石と共に、中世の五輪塔や宝篋印塔の各部が数多く散乱した状態であった。

郷村記に大御堂安全寺跡として、「構郷の下田原の上にあり、今にその所を大御堂跡という。その下の海辺に大門という所あり、往古大御堂の門口となりし」とあることからも、大御堂安全寺の寺域内にあった墓地であったと考えられる。

現在、町教育委員会裏庭に出来た遺跡公園に、中世石塔の各部を多数移しているが、紀年銘のあるものは、応永5年(1398)文亀2年(1502)享禄2年(1529)の3基の地輪である。まだ多数の石塔が残存している。また、昭和55年その前の給食センター建設工事中、田崎一郎氏が発見した五輪塔各部がある。尚、近くの浜宮万部塔にも水輪が所在する。

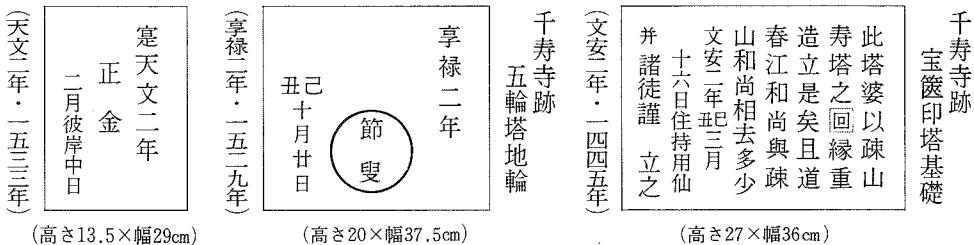
安全寺は万治3年(1660)真言宗宝円寺の末院として、下の田の中に再興された。その後藏大安寺の現在地に移転し、明治3年廃寺となった。現在高原文夫宅である。応永8年銘の宝篋印塔基礎と五輪塔水輪がある。

最近になって、近くの森祥一郎氏のみかん畑の石垣から、宝篋印塔の笠と地輪が出土し、ま



た20m程下の喜々津前勝氏宅からは、反花座の彫刻がある宝篋印塔基礎と五輪塔の各部が発見された。尚近くの滝川内登り口の菩薩様にも空・風輪がある。

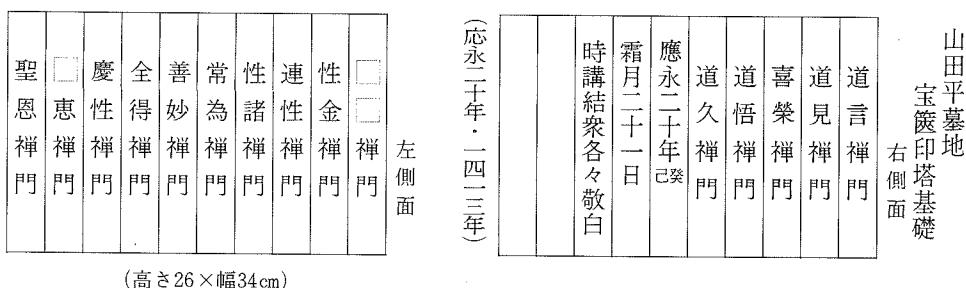
千寿禪寺跡は蔵本郷字千寿寺、現在ゲートボール場になっている所である。寺跡の東20m程の所に禁忌の地があり、壊された五輪塔や宝篋印塔を置いてあった。近年、滝川内の松尾家墓地に祀ってある。(構種近氏談) この中に、文安2年(1445)、享禄2年(1529)、天文2年(1533)の紀年銘の石塔の他多数の宝篋印塔や五輪塔が祀られている。



妙音寺跡は蔵本郷字明時1141番地の水田といわれている。(明時潔氏談) その寺屋敷の近くの天神様の周りに五輪塔の各部が半ば土に埋れた状態で見られる。

三根郷子寺小路1868、山田八郎氏宅左の畠を地勝寺跡と云い伝えている。(山田八郎氏談) その上の墓地の右端に五輪塔の各部が半ば埋れて所在する。

地勝寺跡の谷向い、字山田平の宇都満夫氏宅上のみかん畠を寺屋敷と呼んでいるが、そこの石垣がこわれた時、塔身と地輪が出た。(宇都満夫氏談) そこから30m程上に墓地があり、右端に宇都氏発見の禪門15名が結衆して立てた、応永20年銘(1413)の宝篋印塔基礎がある。また、そこより約100m下国道34号線の道下に、傷みがひどい応永12年銘(1405)の宝篋印塔基礎が放置されている。



川内郷字松葉、国道から約300m入って右側に、せきょうなん(庵)と呼ぶ茶畠がある。その上の音辻茂作氏のみかん畠に、宝篋印塔と五輪塔の各部多数を、適当に組み合わせて基壇の上に祀ってある。なお、約30m東の通山米一氏の畠にも五輪塔が、最近出土したとして数基祀つてある。

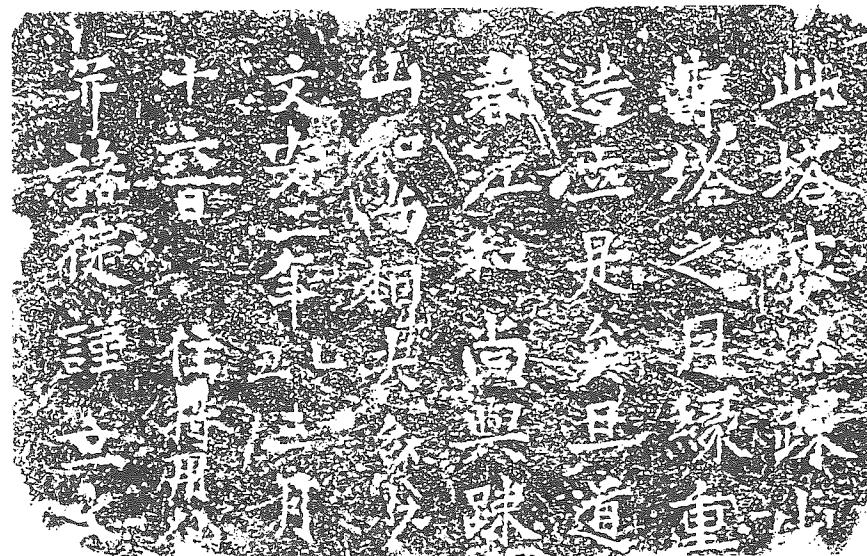
法音寺郷では、昭和60年圃場整備にかかる緊急調査が行われ、その詳細な報告が東彼杵町文化財調査報告書第1集『川井川内遺跡』にある。それによると、報恩寺跡と思われる調査区



安全寺（再興）跡
宝篋印塔基礎左側面



山田平墓地
宝篋印塔基礎右側面



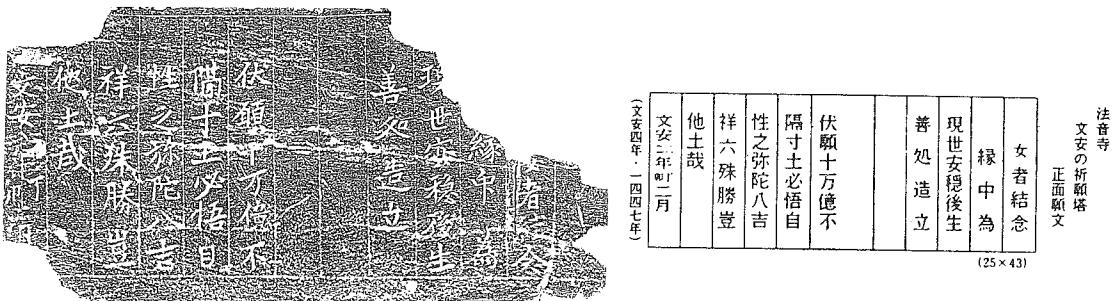
千寿寺跡
宝篋印塔基礎

第54図 東彼杵町所在の中世石塔拓影

に近接した水田の壁の中から破壊され埋められた状況で、偶然出土した多くの石塔が現在字法音寺平のみかん畑に祀られている。その中に文安4年（1447）の年号で一族の結束と繁栄を願った祈願塔がある。

調査地の北西、小高く木の繁った一角があり、五輪塔や宝篋印塔の各部が多数基壇の上に寄せ集めて祀ってある。法音寺郷四郎丸174、ちょいのどうと呼ばれ、嘉吉3年、大永4年の紀年銘のある五輪塔地輪がある。その北隣の畑を寺屋敷と云い伝えている。（松野信太郎氏談）また、谷向いの川原勇氏のみかん畑にも、下の国道付近出土の五輪塔が祀られている。（松野信太郎氏談）

菅無田郷陰平橋の北100m程の字平原、田の中に石塔群がある。これは大正の初め頃菅田文一氏の父が田に拓く時、付近から出土したり石垣に使われていたものを集めて祀ったもので



		道善	淨圓	道泉	聖周	道本	道林	道榮	光順	道尊	道妙	度秀	道祐	道在
門	門	禪門	禪門	禪門	禪門	禪門	禪門	禪門	禪門	禪門	禪門	禪門	禪門	禪門
心禪師	道慶	淨圓禪門	道秀	宗音	性本	道音	道一	道玖	道德	道盛	道性	道順	聖金	禪門
		禪門	禪門	禪門	禪門	禪門	禪門	禪門	禪門	禪門	禪門	禪門	禪門	禪門



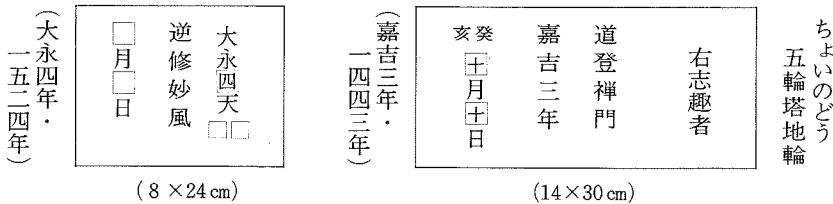
妙善	道金	妙春	妙德	妙消	智	妙	妙	妙	妙	妙	妙	妙	妙	昌清
禪尼	禪門	禪尼	禪尼	禪尼	元	了	了	了	了	了	了	了	了	禪尼
						妙	妙	妙	妙	妙	妙	妙	妙	禪尼
						了	了	了	了	了	了	了	了	禪尼
						仙	阿	一	德	妙	妙	妙	妙	禪尼
						禪尼	禪尼	禪尼	禪尼	德禪尼	喜禪尼	妙	妙	禪尼

妙善	了仙	宗阿	用一	知	妙	了	妙	妙	妙	妙	妙	妙	妙	昌清
禪尼	禪尼	禪尼	禪尼	德禪尼	了	了	了	了	了	了	了	了	了	禪尼
					妙	妙	妙	妙	妙	妙	妙	妙	妙	禪尼
					了	了	了	了	了	了	了	了	了	禪尼
					仙	阿	一	德	妙	德禪尼	喜禪尼	妙	妙	禪尼
					禪尼	禪尼	禪尼	禪尼	禪尼	禪尼	禪尼	禪尼	禪尼	

妙善	了仙	宗阿	用一	知	妙	了	妙	妙	妙	妙	妙	妙	妙	昌清
禪尼	禪尼	禪尼	禪尼	德禪尼	了	了	了	了	了	了	了	了	了	禪尼
					妙	妙	妙	妙	妙	妙	妙	妙	妙	禪尼
					了	了	了	了	了	了	了	了	了	禪尼
					仙	阿	一	德	妙	德禪尼	喜禪尼	妙	妙	禪尼
					禪尼	禪尼	禪尼	禪尼	禪尼	禪尼	禪尼	禪尼	禪尼	

妙善	了仙	宗阿	用一	知	妙	了	妙	妙	妙	妙	妙	妙	妙	昌清
禪尼	禪尼	禪尼	禪尼	德禪尼	了	了	了	了	了	了	了	了	了	禪尼
					妙	妙	妙	妙	妙	妙	妙	妙	妙	禪尼
					了	了	了	了	了	了	了	了	了	禪尼
					仙	阿	一	德	妙	德禪尼	喜禪尼	妙	妙	禪尼
					禪尼	禪尼	禪尼	禪尼	禪尼	禪尼	禪尼	禪尼	禪尼	

第55図 法音寺郷所在の青温石製文安の祈願塔拓影



ある。（菅田文一氏談）

彼杵川の向側、字大黒丸北平に塚があり五輪塔や宝篋印塔がある。郷村記によると、天文2年（1533）重の城の戦で大内勢敗北の時討死した首脳を埋めた塚という。

東坂本の大内田原に宇都宮権現の石祠があり、その左に凝灰岩製の五輪塔がばらばらに所在する。また上の国道端の坂本公民館にも五輪塔地輪がある。

中尾郷太の原、那太石権現付近から10数年前に出土した五輪塔が遺跡公園にある。（辻浩一氏談）現在も那太石権現社殿の裏に五輪塔地輪が所在し、右隣の勝野清氏宅では裏庭の工事中に出土したとして、宝篋印塔基礎と五輪塔がある。（勝野清氏談）その隣家大原真二氏宅前池の上に、宝篋印塔基礎の上に五輪塔を祀っている。大原氏宅裏山を寺跡と云い伝えているが、そこにも五輪塔が散見される。最近100m程上の畑を開墾中に水輪が出土した。（大原真二氏談）尚、寺跡より30m程南に薩摩様と呼ぶ古墓地があるが、五輪塔が散在している。

千部塔は大川食品センターの上にあるが、その周囲、裏の石積みの間にも五輪塔が点在する。姫の墓は彼杵小学校体育館横にあり、寿山大姉の法名がある凝灰岩製の五輪塔地輪と五輪塔の各部が祀られている。

口木田郷堂の本、口木政則氏宅付近を寺跡と云い伝えており（口木キワ氏談）五輪塔数基が所在する。尚、隣家口木敏幸氏宅裏にも五輪塔数基が祀られている。大音琴郷塚本、清水觀音堂の下にも火輪があり、小音琴郷江口、八大龍王神社鳥居の横にも五輪塔数基を祀っている。

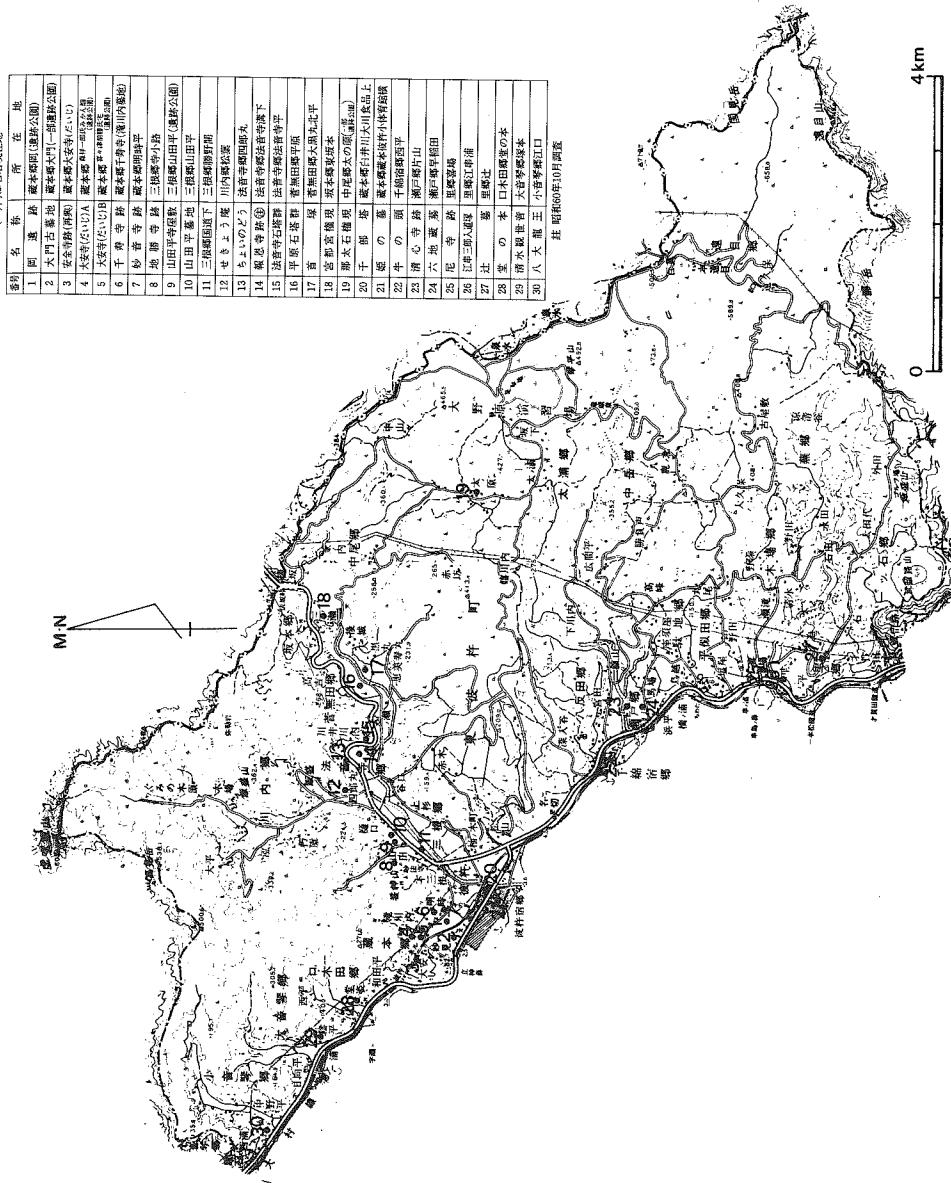
千綿地区の中世寺院として、判夜坊、清心坊、木蔵庵、法勤印、光明寺、慈願寺、エブク寺喜場の尼寺等が伝えられており、各地に五輪塔や宝篋印塔の各部が、寄せ集め或いは単独に散在している。

千綿宿の西はずれに千福様といわれる宝塔があり、この区域を牛の頭と呼ぶが、ここに五輪塔が散在する。

瀬戸郷字片山の富永康彦氏宅上の田を清心寺跡と云い伝えており、その下に宝篋印塔や五輪塔が数多く所在する。（富永康彦氏談）富永氏宅裏に宝篋印塔の相輪がきれいな形で五輪塔の上に、また表の築庭の隅には大きな五輪塔が祀られている。池の所にも宝篋印塔基礎が水神様の台としてあり、他に火輪も見られる。また前の小川の土手にも地輪と基礎があり、その10m程下の八幡様にも五輪塔数基が祀られている。

瀬戸郷の六地蔵から上に登った道端、字早稻田にある六地蔵墓に五輪塔の火輪が、更に上の大神宮境内と道隣城の谷墓地、それぞれに空・風輪が所在する。

第56図 東彼杵町所在の中世石塔分布図



里郷壹場の長崎享氏宅付近を尼寺跡と云い伝えており、(楠本安氏談) 楠本氏宅裏山に五輪塔が多数所在する。また、里郷江串浦に江串三郎入道塚と呼ばれる石塔があり、その後に多数の五輪塔が祀られている。また辻墓地にも火輪がある。
(開)

註 大石一久「大村地方における中世期石造美術について」(その一)

『大村史談』27号 1984

表3 東彼杵町内所在の紀年銘中世石塔

昭和63年3月現在

時代	年号	西暦	場所	種目	関係銘文	寸法 高さ×幅cm	備考
鎌倉							
(1334) 南北朝 (1391)	正平二十一 正平二十一 康応元	1366 1366 1389	岡遺跡 岡遺跡 岡遺跡	五輪地輪 宝篋基礎 五輪地輪	右造立志者 素輪大姉靈 林公大姉	24×37 30×37 14×30	建武の中興 (遺跡公園) (遺跡公園) (遺跡公園)
(1392) 室町前期 (1467)	〔元永〕五 応永八 応永十二 応永二十 嘉吉三 文安二 文安四 宝徳元 宝徳三 寛正二	1398 1401 1405 1413 1443 1445 1447 1449 1451 1461	大門古墓地 安全寺(再興)跡 勝野開国道下 山田平墓地 ちょいのどう 千寿寺跡 報恩寺跡 清心寺跡 岡遺跡 岡遺跡	五輪地輪 宝篋基礎 宝篋基礎 宝篋基礎 五輪地輪 宝篋基礎 宝篋基礎 五輪地輪 宝篋基礎 五輪地輪	地禪禪門之忌 慈聖和尚 日本国肥前州彼杵村 時講結衆各々敬白 道登禪門 此塔婆造立以疎山 文安の祈願塔 宝徳の祈願塔 三界唯一心 帰真宗澄禪門	18×32 20×30 30×37 26×34 14×30 27×36 25×43 22×31.5 24×32.5 16×34	南北朝統一 (遺跡公園) (遺跡公園) (遺跡公園) (遺跡公園) (遺跡公園) (遺跡公園) (遺跡公園) (遺跡公園) (遺跡公園)
(1468) 室町中期 (1541)	文亀二 大永四 享禄二 享禄二 天文二	1502 1524 1529 1529 1533	大門古墓地 ちょいのどう 大門古墓地 千寿寺跡 千寿寺跡	五輪地輪 五輪地輪 五輪地輪 五輪地輪 五輪地輪	如圓 逆修妙風 淨珍 節叟 正金	14×26 8×24 12×31 20×37.5 13.5×29	戦国時代始 (遺跡公園) (遺跡公園)
(1542) 室町後期 (1573)							1542. 天文十二 鉄砲伝来 1549. 天文十八 キリスト教伝来

[天正2年(1574)切支丹寺社焼討ち]